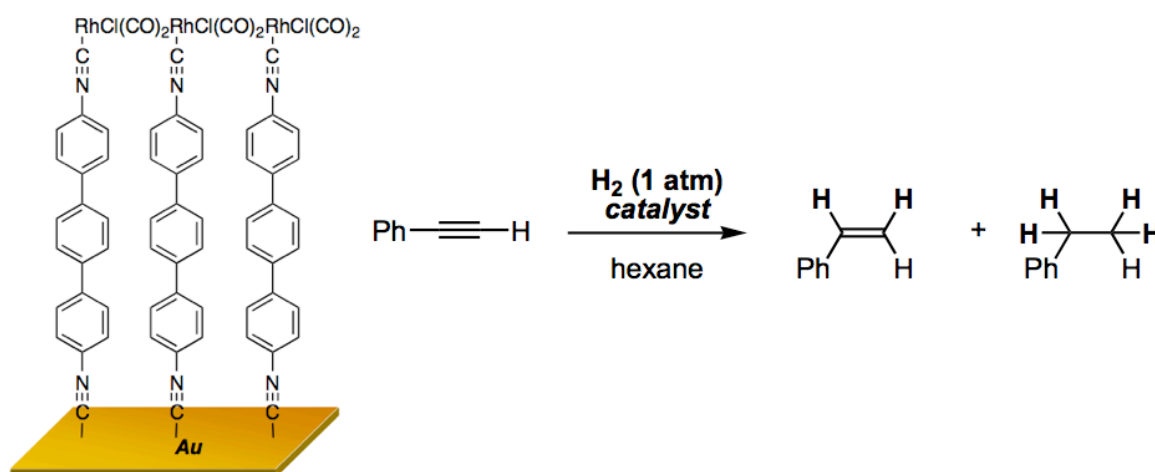


金表面上に形成したジイソシアニド-ロジウム錯体 単分子層の水素化触媒機能と構造解析

Hydrogenation Catalysis and Structural Analysis of Disocyanide-Rh Complex Monolayer on Au Surface

原 賢二¹、梶 義規²、田 旺帝³、朝倉 清高¹、福岡 淳¹
¹北海道大学触媒化学研究センター, ¹北海道大学理学院,
³国際基督教大学教養学部

従来の触媒化学は、触媒分子を設計・合成して溶液中で用いる均一系触媒（分子触媒）と金属や酸化物表面の特性を利用する不均一系触媒に大きく二分されてそれぞれが発展してきた。従来の学問分野の枠組みを超えた新しい触媒設計手法として金属錯体の単分子層を利用する触媒系の研究が報告されているが[1]、大きな進展を果たしていないのが現状である。そこで我々は、この単分子層触媒系に適した分子を設計して用いることにより有用かつ特徴ある触媒反応場の構築を目指した。これまでに種々の金属錯体の自己組織化単分子層を高密度に形成する手法を開発した[2]。今回、ジイソシアニド分子の自己組織化単分子層(SAM)を金表面上に形成してロジウム種の固定化し、水素化触媒反応への応用を検討した。その結果、本手法で作成した表面が高い触媒活性と触媒寿命を有することを見いだした。発表では、この触媒系の詳細と全反射蛍光 XAFS 法による構造解析について報告する。



[1] K. Tollner, R. Popovitz-Biro, M. Lahav and D. Milstein, *Science*, **278**, 2100 (1997)

[2] K. Hara, R. Akiyama, S. Takakusagi, K. Uosaki, T. Yoshino, H. Kagi and M. Sawamura, *Angew. Chem. Int. Ed.*, **47**, 5627 (2008); K. Hara, S. Tayama, H. Kano, T. Masuda, S. Takakusagi, T. Kondo, K. Uosaki and M. Sawamura, *Chem. Commun.*, 4280 (2007)